

西遊記

百を渡さへれば宜しい訳では三人の弟子に馬一匹是だけ
 厄介に相成る 陳澄「エ、宜しうございませア此方へ御弟子
 方は何處に御在にありませすか 三藏門前に待たして置いた
 陳澄ソレはく 何うぞ此方へ御呼入れ下さるやう早速の承知
 でございませから三藏聲を揚げて 三藏行者主人が承知致し
 て呉れたるゆゑ此方へ参つて御挨拶をするやうに 悟空ハッ
 左様で……行うせ又何だ初めての者が貴様達の面を見ると
 驚くから氣を付けなくつちやア往けねへせ 八戒へエー何う
 氣を付けるんだい幾ら氣を付けたつて此面は此面だよ 悟
 空極りを言つてやがるゾロく 三人が這入つて来るのを見
 ると見馴れぬいから家内の者はソレ怪物が来たと云ふと皆逃
 出した様子主人も驚いて逃げんとするから 三藏コレく御
 主人決して怪しいものではない是は手前の弟子だ 陳澄何う

西遊記

も御僧には妙な顔の御弟子を御連れなさる 三藏是は孫行者
 と申す者は是は八戒是は妙悟淨と申す顔は斯様さあるも此まで
 悪い者ではぬい必ら也御心配御無用でござる 悟空私くしは
 孫悟空と云ふ者で師匠の言ふ通り面は此様でも腹は締腹な男
 で何うぞア驚かぬへで…… 陳澄「エ師僧が左様仰せられ
 ますれば安心を致します 悟空今承たまはりませれば何か御
 取込があるさうでソラ云ふ所へ三人四人御危介にあつて相濟
 みませんが袖そり合ふも他生の縁願く石も縁の端とやら何う
 云ふ御取込でございませすか御物語り下さることはなすま
 いか 三藏是は行者能く申した人の憂へは聞いて上げべきも
 の如何様ある御心配御取込とは知らんが貧僧に御物語り下
 ることにはなすまいか我々の力の及ぶことあら如何哉
 相談に乗りませう 陳澄何うも有難う存じませ一夜泊りの御

西

遊

記

方さへ左様御心配下さいませる併し申上げなければ何を陳澄
 が欺りを言ふだかと思召もございませうゆえ御話を致しませ
 八戒エ、承たはりませう何う云ふ次第でございまそか此八戒
 が聞めて居りませから 悟空黙つて居る馬鹿野郎 八戒阿兄
 は俺ばかり叱言を言ふ 悟空師匠様が話をしてお在かざるか
 ら此方は聞めて居れば宜いのぞ手前から見ると悟淨は温番し
 いや 八戒温番しいのぢやねへ眠つてる 悟空手前が眠がつ
 てるのだ、三藏は其所へ出て 三藏御主人何う云ふよとで 陳
 澄左様でございませ御話いたしまそも涙が先へ出る位陳澄お
 前より御話をして御聞かせ申せ 陳澄承知致しましてござい
 ませ阿兄はもう働きに沈んで居りますから申そこと前後に
 ありませ私くしも心配でございませが阿兄に代つて申しませ
 心配取込と申そは何を隠しませう此所の守神と申しませるの

西

遊

記

は靈感大王と申しませ是から三里程山へ這入りませしたる所に
 御堂がございませ毎年七有の二十八日が祭禮でございまして
 然る所が其當日には諸々の肉を捧げ供物を供へるのは別段に
 珍らしいこととございませんから實は二十七ヶ村ございませ
 中より毎年職といたしまして十歳以下の男女を二人宛供へま
 するの夜に玉満と云ふ頃ほひに靈感様の社へ連れて参る其
 二人の子供は骨もさく靈感大王がソレを召上ると云ふことで
 ございませソレを此國では仕來つて居りませ所が當年は手前
 共で二人の子供を出せと云ふことに當りませして阿兄の娘に手
 前の伴末の子ではございませが此二人が今晚八つの鐘を合圖
 に靈感様の社へ連れて参りませして性機になりませるので……
 悟空一寸行者が御尋ね申しませが其靈感大王と云ふ奴が毎年
 祭禮の時に肉を供へる外に十歳以下の男と女の子を食つて仕

西遊記

取でやる譯でもございませぬ子供を納めなかつたら何うか
 しまとかい 陳清ソレは性儀の子供を納めませぬ時に大風
 雨にありソレばかりではございませぬ入用の時も雨は降らず
 實に二十七ヶ村が兎作極まりがございませぬ供物を供へ盛威
 様の心を和らげる時は五風十雨實に穏かでございませぬ二人の
 子供には代へられませぬ村内一同のことにありませぬから是
 非なく之を祭禮の性儀と致して居りませぬ三藏其所へ出て三
 藏誰が其子供等を遣はせと云ふことを極めませぬ 陳清ソレ
 は誰が極めると云ふではございませぬ祭禮より三日或は五日
 位前に白羽の箭が屋の棟へ立ちます 三藏成程 陳清子供の
 ある家に限ります其箭の刺りました家は何うも仕方がござい
 ませぬから差出しますソレで本年は兄の家へ立ち手前共へ立

西遊記

ちましてございませぬ 陳澄陳清の申せる通り今日で三日あど
 屋の棟へ箭が刺りました時にばもう家中の者の概きは別段で
 ございませぬ手前の娘は當年七歳に相成ります一秤金と云ふも
 のでございませぬ又舎弟の傳は八才にあり陳關保と申します此
 二人を愈々今晚出しましたして性儀にして仕舞いますやうな譯で
 末の子ではございませぬが扱七八歳まで育てましたものを今晚
 大王へ差上げるかと思ひませぬ實に胸が割けるやうでござい
 まると陳澄陳清の兄弟はワツと泣出した物陸に居りませぬ女房
 達に於ても同じく涙に暮れ家内大勢に於ても物語りの中に唯
 泣聲ばかり聞えませぬ三藏暫らく法衣の袖を合はして考へて居
 たせ 三藏行者 悟空へエ 三藏何うだ其方の工風で此二人
 を助けて進ませることは出来まいか 悟空ナニ雑作ございませ
 ん私くしは最前から聞いて居ります其の盛威大王と云ふのは

魔物でございませぬ。性には子供を食うなんぞつて其様あるとは
 あるものぢやアございませぬ。三藏、御助け申さるゝと出来
 か。悟空、エ、出来やうとも朝飯前で。三藏、朝飯前……悟空
 雑作もございませぬ。三藏、エ、御主人是る弟子共の言ふに
 は誠にて御痛はしいことぢやと二人の子供を御助け申すと云
 ふが御任せあさらんか。兩人、エ、助かりませぬとござい
 まされば金銀は何程……三藏、イヤ、金銀を出すから助かると
 云ふ次第ではない。唯一夜の宿り是も御縁であるから依つて御
 助け申すことを彼等へ申入れた所彼等も承知致したから何う
 ぞ此處へ御尋ね下さるやう。陳澄、左様でございませぬか……
 貴所へ伺ひませぬが子供等は助かりませぬか。悟空、助かりませ
 ども御助け申すのは何でもないと云ふのは神は非禮を受けず
 氏神をして居るものが肉を供へ其外酒果物を供へて神を祭る

と云ふものはありませぬか。命有る子供を毎年二人宛食う其様な
 神があるものぢやアございませぬと私くしの考へませぬには大
 方其靈威大王と云ふのは是は魔神だらうと思ふので魔神で見
 れば仔細はございませぬ私くし共が宜いやうに致しませぬ
 つてお家の子供衆を此處へ連れて来て御見せあさい私くしが
 一人ぢや逆も二人の役は勤まりませぬから……八戒、八戒、エ
 、悟空、手前此處へ来い。八戒、何うするのだ。悟空、手前と俺
 の家の子供達に代つて今夜靈威大王の社へ行つて食れて仕舞
 うんだ。八戒、眞平御免だ食はれに行く奴があるものか。悟空、
 俺が付けてるから大丈夫だ。八戒、ソレは阿兄が付けて行けば
 大丈夫だつてことよ俺が行くんだから。八戒、ソレは阿兄が
 行けば大丈夫は大丈夫だが悟淨ぢや往けぬへか。悟空、悟淨ぢ

西遊記卷三

や少し術が足りぬへ人間が馬鹿でも手前の方が……！ 八戒馬鹿
 鹿なんぞは言はなかつたつて宜いぢやねへか 悟空御主人一
 秤金と云ふ娘子に陳關保と云ふ男の子を此處へ出して下さら
 ちければ往けません私くし共か其通りにちつて行くのでござ
 いまもから 兩人へエー其通りに…… 三藏イヤ決して御主
 人御疑ひあさるな手前の弟子は物に變化るなどに妙を得て居
 る御連れあさるやうに…… 兩人左様でございましかど是よ
 り兩人の子供を此所へ連れて参る 悟空術を施して兩人の子供
 を助け且つ靈感大王と云ふ魔王を退治しまする一條冊を重ね
 て申上げませ。

明治卅一年閏月三日印刷
 同年五月廿日發行

東京市淺草區公園第六區三番百四
 桃川燕林亭



講演者 野 萬 吉
 發行者 同 神田區佐久間町三丁目卅八番地 市 川 路 周
 印刷者 同 淺草區森田町五番地 小 宮 定 吉

發行所

東京市神田區 佐久間町三丁目

文 事 堂

